



国分寺

第1回 三多摩地域稲門会連合懇親会



日時 昭和五十四年十一月七日(水)午後六時
場所 立川市立市民会館地階プチモンド

戦後、発展の著しい西東京の三多摩地域においては、住居としての快適性や、それに伴う都市形成の進展によって、我が早稲田大学卒業生及び在校生の居住が急速に増加しており、それに伴って三多摩各市に早大の地区別校友会が結成され、個々にはあるが横の連絡をとってきただが、なお未組織ではあるが近く校友会の結成を希望している地域にも呼びかけて、将来は各市地区校友会の連合会をと念願し、小金井稲門会会長 稲垣 信雄氏、同会事務局幹事 林 茂夫氏を初め、既成各校友会の代表幹事や近隣の校友の努力によって、ここに十五市——八王子・青梅・日野・立川・府中・町田・国立・国分寺・小金井(校友会結成済) 武蔵野・三鷹・調布・小平・多摩(未組織)の校友役員が一堂に会し、早大卒業生としての自負と連帯のもとに各地区校友会との連絡を密にし、もって強力な母校愛を連続として永続させるべく企画して第1回の連合懇親会をこれらの地域の中心地である立川市において、立川稲門会の尽力によって開かれました。学校側からは、清水 司総長、友田 信校友会代表幹事が出席され、我々の企画に感謝と激励の挨拶を頂きました。

国分寺校友会からも中藤会長を始め十一名が参加し、各地域の方々とも親交を深めました。

三多摩地域稲門会連合懇親会 次第

司会 立川稲門会会長 砂川 昌平氏

この会を企画し、地域的にほぼ中心に当る立川が第一回の懇親会開催の場と定められ、皆様にお呼びかけ



したところ、各地区から多数の参加者を得ましたこと及び大学側よりお多忙のところを清水総長、友田校友会代表幹事のご出席を頂きましたことを深く感謝致します。

世話人代表挨拶 国分寺校友会幹事長 梅田 浩正氏

今まで各地区別校友会總會におきまして、相互に他地区校友会の幹事さんや役員の方々をお呼びし合って参りましたが、五十一年頃より三多摩の各地区別校友会の連合会を持ちたいと話が出ており、各地区幹事が熱心に話し合いの結果、今日ここにこの会を開かせて

頂いたことは誠に欣快にたえません。申すまでもなくこの会の目的は、三多摩地域いや西東京地域における『早稲田精神の昂揚と、早稲田志操を確認する』ものであります。

連合会会議議長 八王子早稲田会会長 片桐 進氏

地域稲門会設立の促進と三多摩地域連合稲門会の結成について。既成のところはより一層の努力により、会の充実を促進してほしい。未組織のところは五十五年度中にも組織して頂き、正式にこの三多摩地域連合会の拡大発展を期待します。次回の連合会開催地は、国分寺校友会にお願いいたします。

清水 司 早稲田大学総長 挨拶

九十七年に亘る早稲田大学の名声は偏に先輩諸兄姉の努力の賜であり、我々もこの名を汚さぬようより一層の精進を重ねねばならない。去る十月二十一日の創立記念日に、早稲田創立一〇〇年の記念事業の大綱もきまり、二〇〇億円募金に校友一同が懸命のお骨折りをいただいている。是非達成させて頂くようご協力をお願いしたい。

友田 信 早稲田大学校友会代表幹事 挨拶

東京地区には実に十六万人の卒業校友がいる筈であるのに名簿として届いているのは三万名にすぎず、校友としての連帯と学校の諸状況を認識願う意味からもこのような各地区校友会を組織し、早稲田学報のご購読をおすすめて頂きたい。

以上の後、懇親会に入り、会は久し振りに会った同期校友の肩のたたき合いや各地域で活躍しすロータリー、青年会議所等々の諸会員の雑談に約二時間ややかな雰囲気の後、全員肩を組んでの「都の西北」の大斉唱に会を閉じました。



三多摩地域稲門会連合懇親会出席者名簿
(敬称略)

- 八王子早稲田会
 斎藤 芳孝 (S 26 商) 八日町三一十七
 片桐 進 (S 12 理工) 天神町五
 加藤 政利 (S 31 商) 元本郷町四一六一
 浅野 政彦 (S 40 文) 子安町三一四一十
 沢渡 勝 (S 42 法) 八幡町八一三
 浜野 泰吉 (S 42 法) 東浅川町七一六
 山崎 公義 (S 31 法) 平岡町十四一十
 青梅稲門会
 高野清三郎 (S 26 商) 青梅六十
 日野稲門会
 千田 吉郎 (S 24 教育) 多摩平三一九一十二
 天野 義雄 (S 30 教育) 日野台一十五一二十三

- 山田 裕四 (S 31 政経) 三沢高幡台十一二〇三
 立川稲門会
 砂川 昌平 (S 23 文) 砂川町三一十一二
 高田 勝敏 (S 29 商) 柴崎町二一三三十四
 井上 佳道 (S 35 法研) 柴崎町三一五五
 高野 金悦 (S 26 理工) 柴崎町三一五九一六
 川口 和雄 (S 33 商) 曙町二一十二
 鈴木 健一 (S 36 政経) 錦町三一十一一三
 高橋 芳樹 (S 34 商) 柏町四一五一一柏町住宅
 斉藤 充生 (S 41 政経) 曙町二一十二
 柳沢 一郎 (S 24 政経) 砂川町七一十一一十八
 鷲海 量良 (S 37 政経) 若葉町三一六九九一二十四
 町田稲門会
 武藤 紳夫 (S 27 法) 中町一十一一十一
 小町谷栄三 (S 25 専政) 原町田六一三三二十
 早大国立校友会
 桜山 隆一 (S 25 商) 中二一五一九
 浅田 義幸 (S 34 政経) 中二一七三三二
 長沼 昭夫 (S 26 政経) 中一一一一一
 宮田 唯男 (S 24 専法) 西二一九一七
 萩尾 昇 (S 29 文) 中二一三三一九
 早大国分寺校友会
 梅田 浩正 (S 14 専政) 東元町一三三八一二十四
 板橋 恒二 (S 12 理工) 本多三一九一六
 須田 茂雄 (S 18 政経) 東元町一十七一十六
 箱岩 徹 (S 23 専工) 東元町二一九一二十四
 安食 得郎 (S 16 専法) 本多四一十一一五十一
 若月 啓功 (S 34 建築) 本町二一三三三十四
 中藤 俊一 (T 15 専法) 本多五二一八一二四
 天野ヨシ子 (S 28 教育) 東元町一十九一二五
 塩谷 信雄 (S 15 法) 南町一一二一八
 田中 康義 (S 35 政治) 本町二一三三三十四
 林 久仁雄 (S 33 政治) 本多二一三三三
 早大府中校友会
 松本 三郎 (S 5 専商) 本宿町一一八一
 吉 誠 (S 43 法) 若松町二一七一一五
 山口 政行 (S 24 専政) 日鋼町一一三
 重広 正 (S 24 専政) 栄町三一二十六一三

- 小金井稲門会
 稲垣 信雄 (S 11 商) 前原町一十三一十一
 林 茂夫 (S 31 政治) 中町三一二十四一二十一
 関口 弘治 (S 35 政経) 本町六一三三三十四
 前島 亮三 (S 5 専商) 梶野町三一三一七
 中林美沙夫 (S 31 教育) 本町四一五一四五一
 寺本 正男 (S 11 政経) 前原町三一七一二二
 亘理 鉄哉 (S 38 建築) 本町五一一二二六
 佐野 徹 (S 32 法) 貫井南町四一三三三三六
 伊藤 豊 (S 15 専商) 梶野町一一一十八
 田中二三男 (S 36 政経) 梶野町二一六一十六
 佐野 浩 (S 40 法) 東町四一五五二二十九
 武蔵野市
 中村 高一 (T 12 法) 吉祥寺本町一二十三一九
 桜井平八郎 (S 8 理工) 吉祥寺北町四一十一一四
 新美 信正 (S 34 政研) 緑町一七一二二十七
 田中 福一 (S 29 商) 中町三一八一十三
 細川 武人 (S 35 法) 緑町二一一一五
 竹沢 昭男 (S 30 法) 中町二一六一十五
 望月 芳武 (理工工経) 境三一四一五
 三鷹市
 谷鹿 光治 (S 5 理工) 下連雀三一六一一十四
 鈴木 万吉 (S 5 理工) 牟礼四一六一一十六
 田井 秀治 (S 27 理工) 井の頭五一十二一二十
 益岡 久雄 (S 16 商) 下連雀三一三三三十八
 調布市
 元木 勇 (S 37 政経) 若葉町二一二二一十
 嶋田 太郎 (S 37 法) 深大寺町四〇六三
 吉尾 勝正 (S 42 法) 富士見町三一九一十六
 小平市
 小林 勝行 (S 50 社会) 上水本町一、六〇三 松樹荘
 片山 務 (S 33 教育) 小川町二一一三二五
 木村 賢司 (S 38 法) 小川西町二一三六三一四三
 山下 博嗣 (S 52 商) 吉祥寺南町四一五一一三
 多摩市
 富沢 政鑑 (S 13 理電) 連光寺一
 武山 浩士 (S 32 理工) 桜ヶ丘二一一二一六
 高取 渡 (S 22 政経) 桜ヶ丘一一三八一十一
 新田 侃治 (S 24 専商) 桜ヶ丘一一三三三一

思い出

日本大学教授 笠原正成

私は昭和五年に早大専法に入学した。その頃は、上野の不忍池を目の前にした茅町に住んでいたが種々の事情で家計は苦しく教科書の不足は、図書館で本を写して教科書を自分でつくったりしていた。そして茅町から学校までは時々歩いて通学していたが、そのような逆境のなかでも意気軒昂。専法は豪放磊落の人物がいるかと思うと、紅顔の美少年もまじり、分別くさい老学生もいてしかも支那、朝鮮、台湾からの学生達もいて和氣藹藹で、教室は常に熱気をはらんでいた。当時は、大隈銅像に一礼した後、教室に入ってくる学生もいた。その一人が、国際公法の中村進午博士の講義の際しきりに質問していたが、その熱意に感じて先生が自分の教科書をその学生にプレゼントされたことは実に感銘が深いものがあった。学生の数が少なかったということもあったが、学問というものをめぐって教授と学生との間に共通の何かが存在していたかもしれない。

昭和五年十月には早慶野球入場券配布がもつれて同盟休校事件がおきた。昭和六年十月には高田早苗総長辞任、田中穂積総長就任があったが、政経学部は反対決議をした。専法並びに専商等でも反対運動がおきた。学生大会は興奮の坩堝と化し、中野正剛先生が円満解決促進のため大隈講堂にこられたが、学生が校歌をもって異議をとなえたため、さすがの中野先生もしばし立ち往生であったが、やがて大雄弁はその場を圧してしまった。あの場の様子は今でも生々しく脳裡に残っている。

また、社会問題を研究するものは体験が

なければ駄目だとの学生達の雰囲気が強くなり、私も電球工場等で夏休み中働いたりした。更に、私達は「専法」と題するパンフレットをつくり、学生達の日頃の考え、時局批判、また、学校側への要望を書いて訴えていた。また、法制経済同交会(平沼先生)に入会して幹事となり石本静枝先生の「産児制限」という題目で講演会等を開催していた。

次に、法科大学の余興に近藤勇のチャンバラ劇と現代版金色夜叉をやることになったが、後者の方で急に臨時に工場の職工の役をやれとのこととて、私はあわてて講堂の前の靴みがきのおじさんの服を借りて着て演じたが、途中台詞を忘れ、臨機応変にやっただけで相手役の友人はさぞびっくりしたてである。

働きながら通学の見込みもなかったので日本大学法文学部法律科に入学した頃は、早大・日大合同遊説を友人と企図結成して時局批判「国民大会」と題して東京の銀座にある国民講堂で第一声を発した。埼玉県は川越、松山、小川、皆野等、千葉県は茂原、木更津、一宮等各地の劇場を借りて入場料は金十銭を取り、あがり高の半分をいただく。宣伝及びビラ配布は我々学生がやり金なき時は、芝居小屋に宿泊して旅役者と一晩語り明かすこともあった。各地の青年団等の後援を受けながら私達学生は、演説会で前座をやり、各自三十分間くらい受持ちで話す。その頃未来の政治家希望の菊池義郎先生、また早大からは五来欣造博士が私達支援のため劇場にこられ熱弁を振るって行かれた。劇場の演説会は臨監者が腰

をかけていて「弁士注意」「弁士中止」とするどい声をききながらやるので、会場は熱狂し演説する方でも緊張の連続で、今日の状況と比較すると実に印象に強いものである。

その後、在来の現行六法全書の解釈では不安となり、社会の変動との関連で法律を考えてみようとなつた。法学部社会学科へ入学した。法学を考えての社会学、つまり手段と考えてきたものが何時かは目的となり老人社会学方面を深めることとなつてきた。出会った諸先生方の影響にもよることも多かつた。そして老人問題についても興味を持ち、文献の整理や外国での研究対応を調べているうちに何時の間にか老人といわれ世代にはいり、自分の研究テーマが自身の問題となつたのは実に皮肉である。また、早大出身が何かの縁となつて慶応義塾医学部日吉校舎にて「社会学」担当の機会をもつたりした。

今や、大学も種々なる変遷と新建に直面している。若い人々も自分が何のために、どう生きるのか基本計画を樹てねばならぬ。私達も御指導いただいた先生方への深謝と共に、どのように御指導を活用させていただくかの重要課題を負っている。私達の専門科目は全体的視野の下にどのような役割と意義があり、学問は何のために、誰れのためにと謙虚に反省し前進しなければならぬ。なお、国分寺早大校友会の皆様御指教、御高配を深謝すると共に、諸氏と肩を組んで「都の西北」を歌う時、在学中の青春に悔いなしの思いと共に、熱気勇氣は充満して離別突破への氣迫を漲らせていただいております。

会員だより

◎ 内山 鶴氏 (昭33 演劇劇団民芸)

昭和五十三年十一月に一年間のヨーロッパ研修からお帰りになられ、今年九月には黒井千次作「家族展覧会」の演出に当られ、北林谷栄、南風洋子、長浜藤夫等の配役で演ぜられました。拝見出来なかつたのは残念です。

◎ 枝 克己氏 (昭35 政経) 三菱銀行国分寺支店長として赴任。

◎ 増本 明氏 (昭34 商) 三井生命国分寺支社長として赴任。

◎ 藤田 豊氏 (昭27 文) 国分寺市立第四中学校長

国分寺市戸倉二一三十一五
電話〇四二五―七五―五七五七

落 ち 穂 ひ ろ い

☆ 第一〇号は三多摩地域稲門会連合懇親会特集になりました。連合会を母体に二〇〇億円の募金に?と感づられる方もいらつしやいませうが、それとこれとは別関係、出せる方には沢山出して頂きます。

☆ 笠原氏から原稿を頂きました。最近の学生は旧制高校の話、専門部の話ぜんぜん解つてもらえませぬ。後輩のため古き良き旧制の熱気溢れる当時の学生生活をご紹介下さい。

早稲田大学国分寺校友会会報第十号
昭和五十四年十二月十日 発行
早稲田大学国分寺校友会
国分寺市東元町1-38-24 梅田方

